

第926回教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和2年1月16日（木）午後1時30分

2 招集場所 教育委員会会議室

3 出席者 伊東教育長，伊藤委員，齋藤委員，千木良委員，小室委員，小川委員

4 説明のため出席した者

千葉教育次長，松本教育次長，布田参事兼総務課長，大町教育企画室長，小幡福利課長，中村教職員課長，奥山参事兼義務教育課長，伊藤参事兼高校教育課長，目黒特別支援教育課長，相馬施設整備課長，駒木スポーツ健康課長，嘉藤参事兼生涯学習課長，天野文化財課長 外

5 開 会 午後1時30分

6 第925回教育委員会会議録の承認について

伊東教育長 (委員全員に諮って) 承認する。

7 第926回宮城県教育委員会定例会会議録署名委員の指名，議事日程について

伊東教育長 伊藤委員及び千木良委員を指名する。
本日の議事日程は，配付資料のとおり。

8 秘密会の決定

5 議事

第1号議案 宮城県いじめ防止対策調査委員会臨時委員の人事について

第2号議案 宮城県美術館協議会委員の人事について

伊東教育長 5 議事の各号議案については，非開示情報等が含まれているため，その審議等については秘密会としてよろしいか。

(委員全員に諮って) この審議等については，秘密会とする。

秘密会とする案件は，8の次回教育委員会開催日程の決定後に説明を受けることとしてよろしいか。

(委員全員異議なし)

※ 会議録は別紙のとおり（秘密会のため非公開）

9 課長報告等

(1) 令和元年度学校保健統計調査の結果（速報）について

(説明者：スポーツ健康課長)

「令和元年度学校保健統計調査の結果（速報）について」御説明申し上げます。資料は1ページから7ページである。はじめに，資料1ページを御覧願いたい。

「1 調査の目的」及び「2 調査の方法」については，文部科学省からの依頼に基づき，学校における幼児・児童・生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とし，抽出調査により実施したものである。「3 調査の範囲・対象」については，表のとおりである。「5 調査事項」については，発育状態において身長，体重，肥満・痩身傾向児の出現率を，また，健康状態において目や鼻，歯・口腔等の疾病や異常の有無について調査している。次に，資料2ページを御覧願いたい。調査結果の概要を「1 発育状態調査」と「2 健康状態調査」に分けて記載している。次に，資料3ページを御覧願いたい。記載されている表は，調査結果に基づく発育状態及び健康状態の統計資料となっている。第1表，第2表については，幼稚園5歳児から高等学校3年生までの各年齢において，宮城県及び全国値，その差，全国順位を記載している。宮城

県が全国値を下回る場合には、差の部分に△印を記載しており、順位が網掛けとなっている部分については、全国順位において上位3位以内を示している。まず、第1表については記載のとおり、身長及び体重ともに、全国平均を上回り、総じて大柄な体格の児童生徒が多い傾向が見受けられる。第2表においては、小学校低学年において、痩身傾向児の割合が高く、肥満傾向児との2極化が見られている。第3表のむし歯については、資料6ページ以降で説明するが、それ以外の項目については御覧のとおりとなっている。次に、資料4ページを御覧願いたい。「Ⅲ 肥満傾向児の出現率」については、男子の小学校2年生、女子の5歳幼稚園児及び小学校4年生を除き、全国値を上回っている。次に、資料5ページを御覧願いたい。このデータは、肥満傾向児の出現率について、小学校5年生及び中学校2年生の男女別に、平成22年度以降の推移を折れ線グラフで示している。小学校5年生男子以外は値が上昇している。次に、資料6ページを御覧願いたい。資料3ページの第3表健康状態調査のうち、むし歯の割合について、平成22年度以降における全国値との比較、差を記載している。むし歯は、全ての学校種別において全国値より高くなっている。近年、全国平均と同様に数値は低下傾向にあったが、中学校・高等学校では、わずかであるが増加している。また、震災前との比較では、すべての学校種で改善が見られている。次に、資料7ページを御覧願いたい。むし歯被患者の割合について、小学校5年生及び中学校2年生を男女別にして、平成22年度以降の推移を折れ線グラフで示している。中学校2年生のグラフでは、男女ともに増加傾向にあり、全国値との差が開いていることが見受けられる。

以上のような状況を受けて、本県としては、引き続き、本県の課題である肥満傾向児出現率、むし歯被患者の割合が全国値と比べて高いという傾向を踏まえ、肥満傾向の改善に取り組むとともに、虫歯予防のために歯磨きの習慣化等に取り組んでいく。

本件については、以上である。

(質 疑)

千木良委員

歯科検診において、以前、虫歯が減ったと感じた時期があったが、ここ4、5年の間は逆に虫歯が増えたと感じることが多くなった。虫歯の傾向としては、症状が重い子供と症状が軽い子供に二極化しており、前者の中には健康な歯がない状態となっている子供もいる。症状の重い子供の影響により、全体的に虫歯が多くなったと感じているのではないかとの意見もある。

また、1歳半、2歳半、3歳半に実施する乳幼児検診の結果が学校に伝わりづらいと感じている。また、歯科医療について基本的な知識を持っていない家庭が増えていることもあり、歯磨きの習慣を身に付けさせただけでは虫歯予防に繋がらない行為が増えていると思う。例えば、水分摂取する際に、水やお茶ではなくスポーツドリンクを飲ませていることについて、虫歯の危険性はなく、健康に良いと勘違いしていることがある。また、夜間の授乳は虫歯になるリスクがとて高くなるため、授乳後の適切なケアをしていない子供の歯を見ると、ケアをしていないことが容易に分かる。家庭において、このような基本的な知識がなくなってきており、こうした知識を知らずに家庭で育てられた子供がそのまま学校に進学してきていると感じている。そのような子供たちは、スポーツ少年団やダンス教室などにおいて、夏場の熱中症対策としてスポーツドリンクなど水以外の飲み物を進められることが多い。あるところでは、スポーツドリンク以外の飲み物の摂取を禁止している事例もあった。このように幼少期から虫歯になるリスクにさらされている子供が多くなっていることもあり、私は虫歯になりそうな歯が沢山あると思いながら歯科治療を行っている。中学校の部活動で、スポーツドリンクを飲む機会が増えたことにより、さらに虫歯になるリスクが高まり、高校に進学した時には虫歯の重症化の事例が増えていると思う。歯科医師会において、そのような状況の関連性を分析していくことは難しいので、幼少期から継続した虫歯予防の取組が必要であると思う。歯科医師の立場としては、幼稚園、小学校及び中学校の連携や、基本的知識を伝えることの大事さと継続性をもう一度見直したいと思っている。

伊東教育長

幼児期の虫歯予防については、保健福祉部と連携して対応していると思うが、その内

容について説明願いたい。

スポーツ健康課長

保健福祉部との連携について、歯磨きだけではなくフッ化物の活用も話題になっており、それを学校で導入するかについては同部との検討を進めていく必要があると考えている。委員御指摘のとおり、小学校においては、給食の後に歯磨きをする習慣は身につけているが、高校に進学するころにはその習慣がかなり無くなってしまう。そのような状況を含め、幼少期から高校までの連携を十分に行わないと虫歯の改善には繋がらないと認識している。また、スポーツドリンクを飲用することによる虫歯のリスクについては、歯科医師会とも情報共有を図り、県教委としても研修等において取り上げ、その啓発に努めているところである。

小川委員

資料3ページの第2表において、小学校1年生から3年生の男子は痩身傾向の全国順位が高くなっているが、小学校4年生から6年生になると全国順位が逆に低くなり、肥満傾向が高くなっている。小学校4年生になると突然肥満傾向になる原因や、例年の傾向について伺いたい。

スポーツ健康課長

調査対象の学校を抽出して実施しているため、前年度の結果と比較することは難しい。例えば、今回の調査では第2表において、小学校1年生（男子）は全国順位が5位となっているが、この子供たちが幼稚園5歳児であった昨年度は全国順位が1位であったことから、前年度の結果と比較するのは難しくなっている。何かを境目に突然傾向が現れるのではなく、宮城県の子供たちはもともと体が大きい傾向にある。

小川委員

調査先のサンプリング方法を伺いたい。

スポーツ健康課長

この調査については、文部科学大臣から知事に依頼されているものであり、調査先の抽出については文部科学省で行っていることから、詳しい抽出方法については把握していない。

(2) 令和元年度体力・運動能力等調査（宮城県分）の結果について

(説明者：スポーツ健康課長)

「令和元年度体力・運動能力等調査（宮城県分）の結果について」御説明申し上げます。資料は、別冊1及び別冊2である。この調査は、国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを主な目的として実施しているものである。はじめに、別冊1の1ページを御覧願いたい。

「1 調査の概要」であるが、調査期間は2019年4月から7月末までであり、調査対象は小学校5年生及び中学校2年生の男女全員である。学校数及び児童生徒数については(3)の表に記載のとおりである。

(4)の調査事項としては8種目の「実技に関する調査」と、児童生徒及び学校を対象とした「質問紙調査」の2種類となっている。2ページを御覧願いたい。「2 調査結果の概要」であるが、これは、実技に関する8種目80点満点の合計で表される「体力合計点」について、本調査の始まった平成20年度からの推移を表したグラフとなる。実線が本県の推移、点線が全国の推移となる。昨年度の仙台市を含む本県の記録と比較すると、小学校、中学校ともに全国と同じく低下傾向にあるものの、小5女子を除いて順位は向上した。また、わずかではあるが、中2男子は5年ぶりに全国の体力合計点を上回った。3ページを御覧願いたい。

「体力合計点」の分布状況は、概ね正規分布となっているが、体力が高いとされるA・B判定の児童生徒の割合が全国と比較して低い傾向が見られる。4ページから5ページを御覧願いたい。「種目別の状況」は、宮城県全体と全国、仙台市を除いた宮城県と全国の比較となっており、全国と比較して優れている種目に網掛けで表示している。小学校、中学校ともに20mシャトルランと立ち幅とびが主な課題種目となっている。6ページを御覧願いたい。学年、男女別に「1週間の総運動時間の状況」を示したグラフである。全国的に、小学生においては運動時間が少なく、中学校になると運動部活動により運動時間が増える傾向にある。本県も、全国と同様の傾向を示しつつ、小学校は若干短く、中学校は若干長くなっている。7ページを御覧願いたい。「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童生徒の割合を示したグラフとなる。小学校、中学校ともに男子の方が女子よりも高い傾向となっており、全体的に本県においても全国と同じ傾向を示している。

8ページから10ページを御覧願いたい。健康三原則である「運動」「食事」「睡眠」に対する生活の状況についてである。9ページは「朝食を毎日食べるか」という質問であるが、本県児童生徒は、「朝食を毎日食べる」という項目で中2女子を除き、わずかに全国を上回っている。10ページは睡眠時間に関する質問である。小5は全国とほぼ同じ傾向にあるが、中2は全国よりやや睡眠時間が少ない傾向にある。11ページを御覧願いたい。児童生徒質問紙調査では、小5、中2ともに体育の授業が楽しいと回答する男子が全国を上回ったが、女子はわずかに下回る結果となった。また、体育の授業展開の項目において全国との差が見られる。学校質問紙調査では、中学校において、学校全体の体力・運動能力の向上のための目標を設定していた学校が、全国に比べ少ないことが分かった。12ページを御覧願いたい。①のグラフは、小学校においてはスポーツ少年団等の加入率を表したものであり、全国と比べてやや低く、中学校の運動部活動加入率は、全国と比べて高くなっていることが分かる。また、②のグラフは、小学生の曜日ごとの運動時間の状況を表したものであり、本県小学生の運動時間は全国と比べて少ないということが分かる。特に、土日の運動時間について全国との差が大きくなっている。13ページから14ページを御覧願いたい。体育の授業に対する意識、運動時間、テレビやゲーム等の画面の視聴時間と体力合計点の相関についてのクロス集計である。小5、中2男女ともに体育の授業が楽しい、1日2時間以上運動していると回答している児童生徒において、体力合計点が高い。また、テレビやゲーム等の画面を見る時間が少ない児童生徒の体力合計点が高い傾向に表れている。15ページを御覧願いたい。平成26年度から取り組んでいる「Webなわ跳び広場」参加校の体力・運動能力の状況をみたものである。参加している学校の体力合計点の平均値が、県平均と比べ高くなっていることが分かった。小学校においては特に、このような運動機会創出への積極的な取組を学校全体として行うことが、体力・運動能力の向上に繋がるものと考えており、授業の改善とあわせて、様々な運動機会をつくるよう促していく。16ページを御覧願いたい。「課題」としては、小学生の運動機会の確保に向けた継続的な取組、中学生の運動の質を高めるための取組、運動が苦手・嫌いな児童生徒への一層の配慮、正しい生活習慣の確立と健康教育への積極的な取組が考えられる。特に小5男女のスクリーンタイム（テレビ・スマホ・ゲーム機等による映像の視聴時間）が増加傾向にあること、徒歩通学の減少等が児童生徒の運動時間の減少に繋がっていると考えられる。「取組の方向性」としては、運動が苦手な児童生徒に対して、授業での助け合いや話し合い、練習や場を選択する活動等の取組を行うことにより、行っていない場合に比べ、運動やスポーツが好き、体育・保健体育の授業が楽しいという割合が高くなる傾向が見られる。このようなことから、仲間との関わりを大切に、児童生徒の良さを認め、やる気を引き出す体育・保健体育の授業づくりを考えていく。また、学校と家庭における取組を明確にしつつ、連携を深めること、健康に関する意識の向上や健康教育の推進を図ることが考えられる。17ページを御覧願いたい。今後の学校の取組として、5点について上げている。授業改善に向けた教員研修等の実施、児童生徒への明確な目標の提示、運動機会確保のための時間や場の創出、校内で統一された補強運動等の実施、生活習慣改善に向けた取組と家庭・地域との連携である。18ページを御覧願いたい。今年度から、県教育委員会では、体力・地域スポーツ力向上推進事業として、民間企業や大学等と連携し、専門の人材を活用した授業づくりや持続可能な運動遊び等に取り組むなど、児童生徒の体力・運動能力向上を目的とする事業に取り組んでいる。その他、学校の取組を支えるための研修会や、専門家派遣等の各種事業及び保護者への啓発活動等に取り組み、児童生徒の一層の体力・運動能力向上に向けて取り組んでいく。次に、宮城県小・中・高等学校体力・運動能力調査結果速報について報告する。別冊2の1ページを御覧願いたい。この表は、各学年、種目ごとの平均値一覧となっており、下に示してあるように、色の付いている部分が最高値、網掛けがこれまでの最高値との同記録、太字・下線のあるものが最低値を表している。上体起こしや長座体前屈、反復横とびで最高値を示している学年が多いが、ボール投げにおいては、多くの学年で最低値を示している。児童生徒の投力が年々低下傾向にあることが表れている。2ページを御覧願いたい。この表は、前年度の結果と比較した一覧となっており、全体的に昨年度と比較して記録の低下が多く見られる。中でも小学校ではソフトボール投げ、中学校では握力、シャトルラン、持久走、高等学校では握力、シャトルラン、立ち幅とびについては、全学年男女ともに記録の低下が見られる。一方で、やや向上傾向の見られる部分として、小学校女子の立ち幅とび、上体起こし、中学校の長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、高等学校の長座体前屈、持久走、ハンドボール投げが上げられる。3ページを御覧願いたい。こちらは、小5、中2、高2の各種目平均値の経年変化を示したものである。こ

のグラフを見ると、上体起こし、50m走、立ち幅とびで中2女子と高2女子の値が接近していることが分かる。特に、50m走は中2女子の方が高2女子よりもよい結果が出ている。

以上が宮城県小・中・高等学校体力・運動能力調査の結果速報である。先ほどお話しした今後の取組を各学校に働き掛け、来年度に向けて改善を図っていきたいと思っている。

本件については、以上である。

(質 疑)

伊 藤 委 員

スポーツや運動に関心を持つことが大事であり、身近にいる人がスポーツ等で活躍する姿はうれしいと思う。例えば、宮城県のホームページでは、全国大会等で活躍した選手が県庁を表敬訪問した際の写真を掲載しており、こうした情報発信はとても大切だと思う。体力・運動能力の向上に向けた取組を継続的に実施することにより、スポーツや運動への関心がより高まるものであり、特に今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、このイベントを活用しない手はないと思っている。去年は、ラグビーワールドカップが開催されたことにより、ラグビーのファンが増えたとの報道もあった。先日、全国大学ラグビー選手権大会を観戦してきたが、決勝戦が開催された国立新競技場には57,345人の観戦者が来場しており、翌日には全国各地でラグビートップリーグも開催され、ほとんどの試合会場は満員となったようである。東京オリンピック・パラリンピックの開催においても、子供たちが将来の目標を持つための動機になるよう、この大会に触れ合えるきっかけ作りをすべきであると思う。例えば、県内出身の選手が活躍した場面について、メディア等で大きく取り上げてもらい、選手が競技に取り組むことになったきっかけや、どのようなプロセスを経て今日のアスリートとして活躍できるようになったのかを伝え、県内出身の選手が世界で活躍していることを発信し、知ってもらうことで、将来の目標を持つ動機に繋がるのではないかと思う。この点について特段の工夫をお願いする。

スポーツ健康課長

スポーツ健康課としても、オリンピックムーブメントの事業に取り組んでいるところであるが、今後は、オリンピック開催による一時的なものではなく、それをきっかけとして継続的に運動する機会を増やしたり、機運を高めていきたいと考えている。また、子供たちが運動を好きになってもらうためのきっかけ作りとして、県内出身の一流選手を招いた講演会を開催している。去年はフェンシングの千田選手を招いて講演会を開催した。参加した子供たちは非常に大きな関心を持ったことから、引き続きこうした事業に取り組んでいきたいと考えている。

小 室 委 員

我が家には小学校5年生の子供がいるが、今回の調査における体力合計点の総合評価はD判定であった。この子は、今年の夏からバスケットボールを習い始めたので、体力が少し付いたのではないかと思っている。私は、小学校1、2年生を対象にミニバスケットの指導を行っており、練習の中にこの調査にある反復横とびを取り入れたところ、初めは24回程度の結果であったが、コツを教えたところ、バスケットのディフェンスと同じ要領ということもあり、次に実施した時には倍の回数となった。最近の子供たちの傾向として、コツが分からなかったり、要領を得ていないようである。子供たちは、この調査の実技のコツを習っていないことから、進級するごとにコツを覚えていく状況にあると思う。スポーツ少年団の練習などにおいて、準備運動の際に、この実技の練習を加えるだけでも調査結果は良くなるのではないか。

スポーツ健康課長

委員御指摘のとおりである。まずは、実技の実施方法について教員に理解してもらう必要があるため、測定方法等について4月に研修会を実施した。また、準備運動において反復横とびのコツを指導することにより、調査結果は良くなると思う。そうした取組を行った結果として、県内の子供たちの体力が年々向上していることが結果として表れていることから、こうした取組も引き続き実施していきたいと考えている。

(3) 県有体育施設のネーミングライツについて

(説明者：スポーツ健康課長)

「県有体育施設のネーミングライツについて」御説明申し上げます。資料8ページを御覧願いたい。県有体育施設のうち宮城球場のネーミングライツについては、現在の契約スポンサー企業である楽天株式会社から、契約を更新したい旨の申し出があり、宮城県教育委員会広告審査委員会において、企業の妥当性、愛称の妥当性、金額、期間など応募内容を総合的に審査した結果、現在の愛称である「楽天生命パーク宮城」で契約を更新することに決定した。

なお、契約金額は1年間で税別2億100万円であり現契約額と同額となり、契約期間は令和2年1月1日から令和4年12月31日までの3年間となる。引き続き、更新された愛称が多くの方々に親しまれるよう、県としても積極的に応援していきたいと考えている。

本件については、以上である。

(質 疑) | 質疑なし

10 資料（配布のみ）

- (1) 教育庁関連情報一覧
- (2) みやぎっ子ルルブルフォーラム
- (3) 令和元年度「みやぎ高校生フォーラムー私たちの志と地域貢献ー」の開催について
- (4) 高等学校段階の入院生徒への教育保障セミナー
- (5) 美術館特別展「アイヌの美しき手仕事」
- (6) 体験イベント「宮城に息づく伝統工芸」

11 次回教育委員会の開催日程について

伊 東 教 育 長 | 次回の定例会は、令和2年2月7日（金）午後1時30分から開会する。

12 閉 会 午後2時19分

令和2年2月7日

署名委員

署名委員